

はくぼく

No204 2013-11-22(金)

責任者 三 浦 真 吾

事務局 吉 田 朝 夫

釧路市美原3丁目57-4 TEL36-7426

約請願署名四六〇筆集約

先月の「はくぼく」でお願いした署名ですが、直ちに応えて頂き、高橋茂雄さん一七〇筆と、山手さん一六〇筆筆が先日届きました。高橋さん、山手さん本当にありがとうございます。

これで二〇日現在、四六〇筆になりました。全教組釧路支部に問い合わせましたら、十二月一〇日が最終支部集約とのこと。お手元にまだありましたら是非署名して頂き、今月末までに事務局へ送って下さい。

退職教二〇周年記念誌 やっと完成しました

今年の総会で提案した「全北海道退職教職員釧路支部結成二〇周年記念誌」の発行について、当、当初、二ヶ月もあればできるだろうと思いましたが、再三寄稿の呼びかけをしましたが、反応が鈍く、止む無く企画として、逝去された会員の追悼文・弔文を載せる事を検討するなどしながら、何とか完成までこぎつくことが出来ました。

一〇部製本しましたが、現在の注文数は五部です。購読される方は、一部三〇〇円ですので、ご連絡を...



矢白別問題学習会終わる

【十一月十八日、はるか薬局3Fで開催 参加者二十一名、】

去る十八日、はるか薬局3Fを会場に「矢白別問題学習会」を開催しました。一ヶ月前の案内で、どれだけ参加してもらえるのか、事務局としては些か心配でしたが、開催の趣旨に添えて頂き、会場いっぱいとはいきませんでした。二十一名の参加者で何とか面目を果たす事が出来ました。遠路わざわざ、別海町からおいで頂いた講師の吉野さんには、会場に一番先に到着していただき、迷惑をおかけいたしました。お話し内容は、

- ・一九九五年五月、日米合同委員会は「沖縄県道越え実弾射撃訓練の『本土』への移転」基地三事案について合意し、五月九日付「道新」は「沖縄米軍移転訓練先、矢白別も候補地に」と報じ、日米間ではその訓練を「本土」の自衛隊演習場に分散して実施しようと考え、最終的に矢白別演習場を含む五箇所に絞り込むなどによって、米海兵隊移転射撃訓練が矢白別に決定した経過からはじまり、矢白別平和委員会は、訓練移転反対声明を出し、自衛隊と町に働きかける。そして一九九五年一〇月一〇日に平和委員会、農民組合、新婦人などが共同して「米海兵隊の矢白別移転反対釧路連絡会」を旗揚げ、釧路一帯の平和勢力を結集する拠点として歴史的なスタートを切る。住民の猛反対に対して強引な地元対策を展開する防衛施設庁は、総額一三三億六〇〇万円（5演習場に対して、騒音対策管理施設・移転訓練費など）と湯水の如く札束で脅し、町長も態度を一変し、受け入れの環境づくりを開始する。こうした米海兵隊移転訓練の一連の経過をスライドを上映しながら、事細かに語ってくれました。話の後で、意見交流が行なわれ、六月十一日の演習場外に着弾するという大失態を起こした当時、居合わせた池田さんの発言があったり、野瀬さんの矢白別の米海兵隊の訓練は練習なので、練習には失敗が付きもの、しかし、実弾射撃と言う戦争武器の殺しの練習であり、単なる過ちでは過ごせない問題であるとの怒りの発言がありました。現地で日夜、監視の目で見張りながら聞いている見地の生々しい実情を知る事が出来ました。最後に語られた吉野さんのことばが忘れられません。私たちの監視行動は「戦争する国づくり」を阻止し、安部政権が成立を急ぐ「秘密保護法案」に対する重要なたたかいでもある。本当に貴重な矢白別問題のはなしで、もっとたくさんの人たちに聞いて欲しかったと思いました。話の資料が手に入りましたので、次号から何回かに分けて「はくぼく」に転載したいと思っておりますので、是非ご一読下さい。

囲碁・麻雀交流大会終る

去る十八日、今年度一回目の「囲碁・麻雀交流大会」を星が浦教育会館で開催しました。昨年は麻雀の部が一卓で物寂しい大会でしたので、今年はどうかな？と不安でしたが、何なとか二卓で囲む事が出来ました。その代わり、囲碁のほう四名（いつもなら六名は参加するのですが）という少ない参加となりました。パークゴルフもそうですが、年々参加する人が減少気味で、体調の老化が進んで、出歩くのが億劫になっているようです。この大会の常連たちも、会場まで行く元気がなくなっているようです。参加の皆さんは、集まって打ち始めると、往年の若さに戻り、元氣いっぱい楽しんで見ると、開催してよかつたなと思っております。

参加者 Ⅱ 囲碁・釜池健・大嶽・三浦・釜池尚
・ 囲碁 Ⅱ 古田・青山・沢谷・大西・坂井・有田・車谷・吉田

・ 囲碁の部

・ 麻雀の部

- ・ 優勝 釜池 健さん
- ・ 二位 三浦 眞吾さん
- ・ 三位 大嶽 正道さん
- ・ 優勝 古田 義仁さん
- ・ 二位 青山 良一さん
- ・ 三位 沢谷 保さん

「釧路の子育て」願ひごと

去る十六日、釧路のゆきとといた保育と教育を考える会の主催による市民シンポジウムが、プラザ幸いで開催されました。この日は、囲碁・麻雀大会と重なってしまい、参加出来ませんでしたので、バネラーで参加した高橋清子さんに集会の様子を記録してもらいましたので、次に掲載しました。

「釧路の子育てに願うこと」と題して、釧路のゆきとといた保育と教育を考える会の主催による「市民シンポジウム」が催されました。主催者側としては、当初三〇名ほどの参加を予定していましたが、四〇名を超える参加者で、皆様の協力に感謝しておりました。

コーディネーターには、釧路教育大学の戸田竜也先生。保護者からは、釧路PTA連合会会長の住尾盛さん。児童館から元職員の高橋清子さんの三人が、日頃考えている「子育て」について問題提起してもらいました。《バネラーから》

三人の子ども(保育園の年長・小学校六年生・中学三年生)の父親でもある住尾さんからは、幼い頃病弱で大部分を病院で過ごした自分の体験から、「自分を愛してくれる人がいる」という事を体で伝える事を大事にしている。保育園は単なる託児所ではなく、愛情をたっぷり注ぐ所だと考える。

一年生担任の藤田さんからは、①子ども、保護者、教師の三者が共に尊重し、助け合う。子どもも人格を持った人間である。自分は保護者と共に育っていききたい。共に育つ共育の関係になりたい。②間違ひOK、失敗OKの学級経営を目指して実践している。

一方通行の授業でなく、間違つた事を全員で解決し、解つた喜び、出来た喜びを共有できる授業をしたい。授業時数や指導要領、学力テストなどが、何時もいつもそういう授業が出来ない悩みがある。

高橋さんからは、児童館運営を一言で言えば「遊びを通して児童の健全育成を図る」とだと考える。たからさまさまな遊び(駒・剣玉・おはじき・お手玉・竹馬・たけ割り・折り紙・百人一首などの伝承遊び。鬼ごっこやゲームなどの集団遊び。トランプ、ウノ、カルタなどのカード遊び。ボール遊び。工作手芸など)を教える。始めは、厚生員(児童館職員の職名)が遊びを構成するが、やがてリーダーが中心になって縦割りや遊ぶよう指導する。集団でたくさん遊ぶことで社会性、協調性、責任感などを身につけさせたいと取り組んだ。

《会場から》

自分の子育てを振り返っても、まちがいOK、しつぱいOKだった。藤田先生の実践は素晴らしいと思う。

まちがいOK、しつぱいOKの実践は、とつても良いと思う。子どもの心が閉じているのに、ねじれ込む教育は感心できない。

心が開いた時、子どもはのめり込む。いつも子どもの生活に密着した興味関心を示すものを扱うのは授業時数や指導要領などの問題があり難い。

収入が高いと学力も高いというデータがあるそうだがどうか? 「家の中で勉強に集中できる環境があかないか」や「補習する環境があるかないか」など考えられるが、貧困を自己責任論にしてしまふ傾向があるが、そうではなく、子どもの成長に必要なお金は、保証されなければならない。

住尾さんと一緒に保育園作りをし、たくさん助けて頂いた。親が育つ場であったり、親同士が育つ場であったりした。「子どもが育つてどういうことなのか」三人のパネラーが話した心からの愛情、豊かな遊び、間違つた事を受け止められる授業など、土台をしっかりとすることが大事だと感じた。

親と先生が、子どもを軸に話が出来ると関係が大事である。

子どもから見て「自分が大事にされている」という寄り添い方。間違ひから学ぶ授業づくりや学級経営。仲間意識を育てる遊び。大事にしたい。

貧困だから学力が身につかないのではなく、子どもの成長発達に必要なものは、どの子にも保障されなければならない。

以上、集会での発言を中心に集約しましたが感想や意見は、どれも内容の濃い示唆にとんだものばかりでした。

今年最後のパーク終了

道東の秋たけなわのシーズンの中、今年最後のパークゴルフが、今月の八日、阿寒町の高原パークで行ないました。参加者九名。退職教参加者が大西さん一名という寂しい状況でしたが、退職教を代表して奮闘したようでした。

成績は次の通りです。

- ・優勝 大西勝雄さん(99点)
 - ・二位 工藤勝雄さん(104点)
 - ・三位 沢谷 保さん(104点)
- 最後の有終の美を飾って、沢谷保さんがホールインワンを打ったそうです。
- 参加者は次の通りです。
- ・大西さん・工藤さん・沢谷夫妻・坂井さん
 - ・伊藤さん・八木夫妻・片山さん

お知らせ

前号で紹介しました樹下和子さんの「私の人生歳時記」の71と73が手に入りましたので掲載しましたが、紙面が大きくてはくぼくの枠の中に載りませんので、別項の紙面に記載しましたので、ご了承ください。

標茶町議の深見さんから議員日記が届きましたので、同封します。何時もながらの元気な深見議員の奮闘ぶりがあるかえります。裏面左下の退職教への提言は貴重なご意見として受け止めたいと思います。民教集会などでの現場教師の厳しい状況はよく耳にしています。